

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700417		
法人名	社会福祉法人 篤心会		
事業所名	社会福祉法人 篤心会 エルピスホーム(ユニット名:虹)		
所在地	〒962-0813 福島県須賀川市和田字沓48番1		
自己評価作成日	平成29年11月25日	評価結果市町村受理日	平成30年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体機能の低下や認知症の重度化が見られるが、利用者が安心して生活できるように健康管理に気を配り、協力医療機関と連携を図っている。可能な限り外出を試み、草花の手入れや水やり、外気浴を楽しむ等の日常的に楽しみながら活動できる環境作りに努めている。  
また、果樹園の広がる地域の一角にあり、目の前を通る道路は空港につながり、のんびりとした中にも人々が行き交う様子が見られている。近くには牡丹園があり、様々な四季の様子を感じながら過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 縫い物や歌など、一人ひとりの趣味や能力を継続できるように支援しており、利用者は生き甲斐を持って過ごしている。  
2. 協力医との医療連携が取られており、利用者・家族の安心に繋がっている。また、緊急時の24時間オンコール体制も整っており、適切な医療が受けられるよう支援されている。  
3. 日頃から職員間のコミュニケーションが良く取られており、職員は質問・意見・提案等言いやすい雰囲気である。管理者は採用すべき改善事項は速やかに取入れ事業運営に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で意見をだし合い理念を構築し共有している。理念は職員が毎日見る場所に掲示し、共有しながら実践につなげている。	一昨年、職員の意見を基に地域密着型サービスの意義を反映した事業所独自の理念を作成し、建物内の玄関や台所に掲示してある。毎日、理念を確認しながら、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方とは、日頃より挨拶を行い、野菜や果物の差し入れを頂くなど交流がある。又、地域のお祭りに出掛ける等、地域参加に努めている。	事業所の納涼祭へ地域の人を招待し開催したり、地域のきゅうり天王祭には、利用者と一緒に参加したりしている。また、事業所へは中学生(職場体験)・高校生(サマーショート)・ボランティアを受け入れる等双方向で交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議などでは民生委員の方へ認知症についての説明等を行ったり、又、地域の認知症高齢者の実情等について話を聞いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	事業所の取り組みに対して、民生委員、包括支援センター、福祉課より、各々の立場から意見を頂き、運営に生かせるように努めている。	運営推進会議は定期的開催されており、事業所から活動内容や事故・ヒヤリハットを報告し、委員からは避難訓練や行事等への質問・意見等が出されており、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1度、地域運営推進会議に参加してもらい、事故や家族対応について意見や情報交換を行っている。又、地域の情報等についても意見や情報を頂いている。	市の担当者が運営推進会議の委員であるため運営状況を把握している。日常的には、事業所の介護保険の認定更新手続きや事故報告等の機会に市の窓口を訪れ、事業所の実情を伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間と留守以外は玄関の施錠は行っていない。チャイムを設置し来客者が分かるようにしている。職員が内外の研修に参加したりと意識向上と実践に努め、身体拘束は行っていない。	一人ひとりの表情、言動等を見ながら、職員の見守りと対応で、玄関に鍵をかけない自由な暮らしを支援している。定期的に事業所内で身体拘束廃止に向けた勉強会を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修やミーティングで虐待について学び、考え、日頃から職員全員で虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員や管理者、介護リーダーによって必要な支援が受けられるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解除時において、経済的な不安や個人情報等を含め、状況に応じて相談や支援を行っている。又、説明時には内容に不明な点はないか必ず確認している。改定時は郵送にて説明、案内を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会総会において家族同士の意見交換の場を設けたり、面会時に積極的に関わりをもち、家族が意見や要望を伝えやすいよう心掛けている。	毎年開催する家族会や2ヶ月に1回開催される運営推進会議、さらに日常の面会・電話連絡等の機会を利用して、利用者や家族の意向・要望を聞いて運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングで管理者と職員の意見交換をし、運営や業務内容の改善に反映している。又、年2回の個別面談を行っている。	管理者は、年2回の個別面談・職員会議・申し送り等日頃の関わりの中で、意見・業務改善の提案を聞き、運営に反映させている。連休の希望があり、アニバーサリー休暇を新設した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度において職員の課業達成度を把握し、資格取得、昇進、賞与へ反映させることで、職員のやりがいや向上心を持って業務遂行できるよう努めている。勤務形態については可能な限り家庭環境や希望に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や能力を考慮し、外部研修へ参加させている。研修報告をすることで職員間の共有に努め、日々の業務に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会の研修等に参加することで、他事業所と情報交換に努めている。特にGH交換研修や訪問研修などでは、他GH従業者との交流も行い、サービスの向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調の段階で本人の思いをくみとり要望をききとることで入居に対しての不安をとりのぞき安心して頂ける様サービス提案に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている問題や不安をききとり、話し合いながらサービス方針を決定しており、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人の担当者と話しあい、連携をとりながら本人と家族が必要としているサービスを見極め関係機関への協力を仰いでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る範囲で家事や身の回りのことを職員と共に行って頂き、共に暮らす環境、関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に面会できるような雰囲気作りに努めている。面会時だけでなく、月1回は状況報告の便りを送り、また必要に応じて電話でのやりとりを行い、家族の意見をケアに取り入れたり、必要に応じて家族からの支援もお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や友人が面会に来られた際はゆっくりした時間を過ごして頂ける様雑音などの少ない環境提供に努めている。また住み慣れた場所、思い出の土地へ出掛けるなどの支援を行っている。	いままで利用していた理美容店へ出かけたり、家族の協力を得ながらお墓参りに行くなど、馴染みの場所への外出支援を行っている。また、家族・友人・知人が訪れた時は、ゆったり過ごしてもらい、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し食席位置を考慮している。一人一人が孤立しないようふれあい活動や行事等を実施し、職員が入居者の間に入るなどして、入居者同士が良い関係を築ける様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了となり併設の特別養護老人ホームへ入居となった方には面会にいき本人とこれまでの関係が途切れない様支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や、本人との日常生活の中で得た情報を元に、馴染みの暮らし、環境、サービス利用の経過の把握に努めている。	利用者の担当職員が決まっており、日常会話や表情、行動を見ながら利用者の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者に対しては家族の協力も得ながら、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からと日頃のコミュニケーションの中で生活歴やこれまでの暮らし方を把握しサービス経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人一人のADLや昼夜の過ごし方、心身状態を記録に残す事で全職員が把握できるようにしている。記録だけでなく口頭でも申し送りすることでより状態を詳しく把握できるようにし必要に応じ、カンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でカンファレンス実施し課題やケアの在り方について意見交換行っている。家族、看護師や併設特養の管理栄養士の意見を反映し入居者の良りよい暮らしができるよう入居者主体の介護計画を作成するように努めている。日頃の関わり合いのなかでの本人の思いが反映されるようにしている。	個別記録をもとにモニタリングを行い、利用者・家族の思いや意向に反映した介護計画を作成している。また、利用者の身体状態に変化が生じた時は、職員の意見も取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の言動を細かく、そのまま記録し、本人の様子を職員間で共有できるようにしている。記録を元に、変化が見られたらすぐにカンファレンスを開き介護計画の見直し、ケアの実践につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内の事業所(併設特養、小規模多機能)と連携し入居者の交流やレクリエーション参加などその時々ニーズに対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所を散歩したり、ドライブや外食、買い物へかけるなど地域で豊かに暮らせる楽しみがもてるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診体制、かかりつけ医を確認している。受診は職員が同行し結果は家族へ報告している。	かかりつけ医は、利用者・家族の希望で、殆どが協力医療機関となっている。協力医への通院や往診の支援は職員が行い、受診結果は電話で家族に報告し共有されている。協力医以外に通院する場合は、家族が対応している。また、看護師、協力医療機関との24時間連携体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に変化があればその都度看護師へ報告し指示を仰いだり看護師にて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は1日おきに面会をし安心して頂ける様声掛けを行っている。必要物品があれば持参し洗濯物の交換をしている。医師や看護師から状態の確認をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のあり方について、入居時とご本人様の状態を見てなるべく早い段階から家族等と話し合いを行っている。ホームで、できる事を十分に説明し共有し支援に取り組んでいる	前回の外部評価結果を受けて、全職員で話し合い事業所独自の重度化・看取りに向けた指針を作成した。早い段階から事業所でできることを説明し、方針を共有して家族等と話し合いを行い、支援に取り組んでいる。看取りに対する研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルが作成されている。内外研修へ参加したり急変時や事故発生時に備え職員間でシミュレーションを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定し様々なシュミレーションでの避難訓練を行っている。 併設特養との合同の防災訓練にも参加している。 近隣住民の協力を得ることも必要だが具体的な行動には至っていない。	火災や地震、大雨等を想定した消火・避難・通報等の訓練を数多く実施しているが、消防署の協力を得た訓練は行っていない。また、併設されている施設との連携は取られているが、地域の協力体制が取られていない。水や缶詰、ヘルメットやコンロ等、災害に備えた備品等を準備している。	職員だけでは誘導等に限界があることから、地域住民や消防機関等と連携を図りながら協力体制を築けるように、運営推進会議等で協力を呼びかけて欲しい。また、総合防災訓練は、消防署の協力のもとで訓練を実施して欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の個性や人格を尊重し言葉使いや態度には気をつけ誇りが損なわれないよう接する心がけている。個人情報の取り扱いに利用者や家族へ説明し同意を得ている。	利用者の個性を尊重し自尊心やプライバシーを損なわない声かけや対応をしている。個人情報の管理は十分に注意を払っている。また、接遇委員会が中心となって、言葉掛けや対応について、毎月目標を立てて評価しながら取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の入居者と関わりの中で、表情や言葉などから入居者の思いを汲み取りコミュニケーションを図る上で意志表示ができるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物やドライブなどを希望する入居者についてはその都度外出支援を行ったり施設周辺を散歩し他部署の職員や入居者と会話したり希望にそえるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整髪や洗顔、髭剃りの声掛けをしたり、介助の必要な方には蒸しタオルを使用し整容の介助を行っている。行事の際は浴衣をきたりマニキュアを塗り喜んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の下ごしらえや炒めもの、味つけや盛り付けなど入居者と一緒に行っている。職員と一緒に畑で育てた野菜を使って調理する事で会話が増え喜ばれている。また、入居者の好物を把握し、メニューを決定したり、外食なども取り入れている。	メニューは、日々の会話の中で希望を聞いたり、在庫品等を活用し工夫しながら適宜変更している。食事作りの作業は、下処理から盛りつけ、洗いもの等利用者と一緒にしているが、職員は食事を一緒に摂っていない。四季折々の行事食を数多く実施し、外食にも出かけている。	共同生活介護事業所であることから、職員も利用者と同じテーブルを囲んで、同じものを楽しく食べられるような環境づくりに努めて欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量はチェック表に記入し状態を把握している。入居者の体調や形態に合わせ水分を補給したり、排便コントロールのため豆乳や牛乳、オリゴ糖など提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケア実施。義歯洗浄剤を毎日行い義歯の衛生管理を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時トイレ誘導や声掛けを行い排泄を促している。排泄チェック表を使用し確認しながら個々にあった排泄用具を使用している。オムツを使用している入居者も排便はトイレで出来る様介助している。	排泄チェック表等により排泄パターンを把握し、バスタオルで覆う等羞恥心に配慮し、その人に合ったさり気ない声かけや誘導をして、できるだけトイレで排泄できるよう支援をしている。紙オムツやパット等利用者に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、食物繊維を含む食事を提供し、出来るだけ自然排便が出来る様取り組んでいる。便秘気味の方には特に豆乳や野菜ジュースなどを日頃から摂取して頂いている。また、体操や腹部マッサージ等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を使用し間隔があいているときは声掛けしている。希望がきかれたときには入浴していただき入浴できないときには足浴や着替え、清拭行うようにしている。一般浴とリフト浴を使用している。	毎日入浴することが可能であり、利用者の希望に合わせた入浴支援をしている。移動が困難な利用者には、リフトを活用しており、入浴間隔が空かないよう声かけしたり、清拭や足浴等も実施している。また、季節感が味わえるよう、ゆず湯の支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の活動状況、体調、生活習慣に応じた休息が取れる様、声掛けや介助を行っている。居間にこたつと、廊下にソファを設置し好きな場所、時間に休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬一覧表を使用し全職員が把握、確認できるようにしている。状態に変化があれば看護師や医師に相談し指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、特技や趣味や馴染みの活動をする機会を提供している。職員との食事づくりや洗濯等の家事、園芸や手芸活動などを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体調や天候に合わせてドライブや外食支援を行っている。入居者の希望での買い物なども行っている。家族の協力の元、自宅への外泊、外出も行っている。	利用者の体調等に考慮しながら、近隣の公園散策、花見や紅葉狩り、外食や文化祭見学等数多くの外出支援をしている。また、家族の協力を得ながら外泊したり、美容室やドライブに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に出掛け希望購入したものを預り金から支払いしている。又、買い物が困難な入居者は職員が代行して買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅に電話をかけて欲しいと希望がきかれたときにはやり取りが可能な入居者には職員が代行し電話をかけ家族と話が出来るようにしている。手紙が届いたときには、本人に読むことが難しい場合代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり装飾をし、玄関やフロア、居室で季節が感じられる空間作りをしている。また、入居者が好む音楽を流し穏やかに過ごす事が出来る様に配慮している。	季節毎に、利用者の作品や折々の花を飾ったり、小正月飾りや雛飾りを行い、季節感や生活感を採り入れている。また、居間の畳敷きスペースも広くコタツも置かれ、家具等も利用者が移動し易いよう配置し、居心地よく過ごせるよう配慮されている。換気や清掃、消毒等も定期的に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファや居間にこたつを設置し一人になれる空間や気のあう入居者同士が過ごせるような工夫をしている。入居者同士で談話する姿や天気の良い日は中庭や玄関のベンチで日光浴する姿もみられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	馴染みの物や自宅で使用していた物などを居室に持参していただき、安心した生活がおくれるよう支援している。好きな物や家族との写真を飾り、愛着を持てる居室となっている。	持ち込まれた物品は多くはないが、仏壇や位牌、こたつや家族の写真、裁縫箱や琴等思い思いに持ち込まれ、利用者が安らげるよう環境作りに配慮している。また、清掃と整理整頓が行き届いており、清潔な環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所などが分かるように名前を表記し自立した生活が送れるよう工夫している。		